

法政就業力通信

～今月のさんぽ道～

法政大学

就業力育成 3D 教育プロジェクト

<http://3dep.hosei.ac.jp/>

就業力育成3D教育プロジェクト

プロジェクトの節目にあたり

特任教員 鈴木 美伸 (すずき よしのぶ)



外堀に桜が咲き卒業の季節となりましたが、我々のプロジェクトも今月で予定の5年目となり、節目を迎えることとなりました。試行錯誤の連続でしたが、前半はカリキュラムや教材の開発を中心に行い、後半はその成果物を体系化して外部に発信することに努めてきましたが、少し振り返ってみたいと思います。

▼ビデオ教材の制作(10本)

これまで紹介してきた8本に加え、今月は金融機関(信用金庫)における六次産業化支援のものと、造り酒屋のIT化(SEの業務)のものが完成しました。

▼ビデオ教材研究会の立ち上げ(今年度は7回開催)

就業力GPからの提携大学を中心に、毎回15名ほどの参加者とビデオ教材の活用法や制作方法の研究会を開催してFDに努めました。

▼法政大学のブランド向上冊子の作成(年に1冊)

高学年の授業(就業応用力養成1)で学生が企画提案を競合し、取材・編集・出版まで行い、オープンキャンパス等で広報できる冊子を作成しました。

▼京都大学高等教育研究開発推進センターでの研究会(MOST)に参加

ビデオ教材を用いた授業について、全国の大学教員に評価を問い、広報するために今月の「第22回大学教育研究フォーラム」で口頭発表を行いました。

こうした活動を通じて、私がいま改めて実感しているのは以下の二点です。我が法政大学は、

1. キャリア教育の層の厚さで他大学をリードできる。
2. ビデオ教材の開発力・教育力で日本のトップレベルになれる。

このプロジェクトに参画して5年間、いつも考え続けていたのは法政大学をこの領域で日本最強にし、その影響力で他大学や企業、社会にも資することです。

その野心がどこまで達成できたかわかりませんが、今後も研鑽して参ります。これまでのご支援有り難うございました。そして今後とも宜しくお願い致します。

略歴

84年成城大学法学部卒。

日米ハイテク企業での営業・人事を経て人事コンサルタントとして独立。キャリアカウンセラー資格取得後は多くの大学でキャリア論の講師を務める。

e-mail:

ysuzuki@stage41.com

yoshinobu.suzuki.88@hosei.ac.jp

研究室は一口坂校舎(8F)801

▼ビデオ教材



▼授業で製作した冊子





卒業生を送り出すとき

教授 藤村 博之（ふじむら ひろゆき プロジェクトリーダー）

今年もたくさんの卒業生を送り出しました。卒業式が終わったあと、研究室にあいさつに来てくれた卒業生たち(学部のゼミ生)と話していると、この2年間の出来事が思い出されます。ゼミで最初に報告させたとき、おどおどして頼りない感じだった学生が、回を重ねるごとに堂々としてきて、4年生の初めには後輩から尊敬されるような発表ができるようになったこと;初めてのレポートを私が添削したとき、名前以外はほとんど赤字が入ったこと;でも何回か書き直すうちに、とてもいい内容になっていったこと;ゼミ合宿での飲み会で人生について語りあったこと…思い出は尽きません◆毎年この時期は、しみりしてしまいましたが、10年後、20年後に彼(女)らがどんな社会人になっているかを想像するという楽しみもあります。社会の中で他の人に役立つ働きができるようになって欲しいという思いを込めて、卒業生に次の最澄の言葉を贈るようにしています。「一寸十枚これ国宝に非ず、一隅を照らすこれ則ち国宝なり」(『天台法華宗年分学生式』)

略歴 84年名古屋大学大学院卒。京都大学博士(経済学)。84~89年京都大学経済研究所助手、90~97年滋賀大学経済学部助教授・教授。97年~03年法政大学経営学部教授、04年~IM研究科教授。



質を求めて量に至る

特任教員 有田 五郎（ありた ごろう）

このプロジェクト一員として心掛けてきたのは「どうすれば学生のために」と工夫して、それを形にすることでした。一区切りを迎えて振り返ると、積み重ねた数字に問い掛けを感じます。累計数字は次の通り。授業では市ヶ谷の「キャリアデザイン入門」2,200名、同・演習450名、多摩の「企業と経済の動向」650名、企画関係は学内外あわせてDVD授業受講者11,000名、HATアセスメント受検者1,200名でした。学生達にもとめること、すなわち「自分で考え・動く」、それを教員自らが授業や企画実施の場で実践してきたことがその数字につながったと信じます。ここからの新たなスタートに対して、この結果は更なる頑張りへの原動力、叱咤激励の声が聞こえてきます。

略歴 70年慶応義塾大学経済学部卒。70~06年伊藤忠商事(株)勤務、06~11年帝京大学と法政大学職員。11年~法政大学教員

プロジェクトからプログラムへ

教育支援課長 平山 喜雄（ひらやま よしお）

2010年度大学生の就業力育成支援事業(就業力GP)の採択から始まったこの就業力育成3D教育プロジェクトも5年が経過し、ひとつの区切りを迎えようとしています。2016年度からはキャリアデザイン学部やキャリアセンターの協力も得て、新たにキャリア教育プログラムとして再出発します。そこで最後はおなじみの語源シリーズで締めたいと思います。プロジェクト(project)とは pro「前もって」ject「投げる」で「前になにかを投げる」→「決めた目的に向かって進んでいく」という意味だそうです。ちなみに re「後ろへ」ject「投げる」となると reject(拒絶する)という意味になりますね。プロジェクトは日本語では「～計画」となることが多いです。本学のキャリア教育も「計画」から「実行」段階に移行しました。ちなみに「プログラム(program)」という言葉は、pro「前もって」gram「書く」ということで「前もって書かれたもの」→「公に書かれたもの」の意だそうです。公言してしまったら、もうやらざるを得ませんね(笑)そういえば、その側に professor(教授)の意味が載っていました。pro「前」で fess「言う」or「人」で、「公の前ではっきりと言う人」になるそうです。なるほどね～と変に納得してしまいました。



法政大学法学部法律学科卒。
学務部教育支援課長

◆ 教材ビデオ新シリーズ完成！

「働く場面を実感させるオリジナル新作ビデオ」の新シリーズ、Ⅸ・Ⅹが完成しました。シリーズⅨ「ウゴカスチカラ～地域を伸ばす金融～」は、金融ビジネス編で、お客様のご要望に応える高いハードルを乗り越えることで成長する若手金融マンについて描かれており、シリーズⅩ「SEが創る未来～お客様の“望み”は何か…?～」は日本の伝統的産業である日本酒の蔵元を舞台に、システム導入により効率的な酒造りを模索する若手SEの挫折と奮闘が描かれています。どちらも見応え十分な作品となりました。シリーズⅨ・Ⅹについては、諸般の事情により有料にてご提供いたします。販売方法が決まりましたら、ホームページ等でご案内いたします。

◆ 編集後記

4年前に前任の細田課長から引き継いだ編集後記もこれが最後となります。読み返してみると最初のころは文章も内容もひどいものが多かったですが、「いつも読んでますよ」という声に押され、調子に乗って(中身はともかく)だんだん文章が長くなっていくのが分かります。ただ、文章を書くというのはとてもいい勉強になります。やっぱり大学って役に立つんですね(笑)。4年間、私の編集後記を読んで下さった皆様、温かい声をかけて下さった皆様に感謝しつつ、後任の方に託して筆をおきます。ありがとうございました。<事務局 平山 >

法政大学 就業力育成 3D 教育プロジェクト (事務局:学務部教育支援課)

〒102-8160 東京都千代田区富士見 2-17-1

TEL:03-3264-9520 WEB:http://3dep.hosei.ac.jp/

就業力育成3D教育プロジェクト